

孫と爺々のオリエンテーリング NO30

2006年6月号

渡辺 幸^{ゆき} (M12) ・ 武石雄市 (M65)

本誌が創刊した 2000 年夏、エミットカードを片手に 6 歳で個人クラスにデビューした幸、あれから 6 年・・・幸はこの春中学生になった。部活はサッカー部、だが、オリエンテーリングは続ける。爺々とは体力が逆転？技術向上を目指して今年も爺々とオリエン行脚は続くだろう。

小学生最後の全日本

小学生も 6 年生の 3 月は行事で結構多忙だ。

スキーオリエンテーリングに少々自信を付けてきた幸は、残念だがルスト大会(3月4-5日)とスノーゲイン(3月19日)は参加を見送った。

幸 「爺々、全日本のプログラム届いたけど、M12 クラスはぼく一人だよ」

爺々 「そうだね、友佳(木村)君と綾(村越)君はM14にエントリーしているね」

幸 「小学生でも 14 歳のクラスに出ているのか？」

爺々 「13 歳となってるからM12 のクラスには出れないんだよ、幸は 11 歳となってるけど 12 歳だよな、プログラムの年齢は変だぞ？」

結局、当日は表彰されたがタイムは同じコースの友佳君とW14の早穂(宮川)ちゃんに及ばなかった。

爺々 「幸、何処かでミスしたんだろう」

幸 「うん、2 番で失敗しました。しばらくフットやってないから又やりたいな」

爺々 「来週(4月2日)は金沢大の大会があるけど、スキーの安比ロング大会に行くことにしてるよ」

幸 「スキーは楽しみだな」

苦肉の新方式参加費

スキー大会の参加者は少ないので運営経費のやりくりにとても苦心する。

これまでスキーO研究会主催の大会はフット大会同様、募集時に参加費を定額にしていた。

今シーズンからスキーO研究会から大口の収入源が撤退し、大会収支は大幅なマイナスとなっていた。苦心の策で担当者は参加者に支出見積もりを公表し、支出額を参加者で均等(9000円)に負担する事を発表した。結局その後セレクションレースに強引に参加させられた者も増えて最終的に7000円になった。

12歳の幸もセレクションレースに出たので同額だった。子供なので本人が負担する心配はないが保護者にすれば割り切れない思いがするだろう。

参加料金の設定は来シーズン大会に向けての課題だ。



フラッグの傍らでスキー遊びする兄弟

ルールと用語の説明

スキーWOC2007のセレクションは4月2日朝8時からスタートが開始された。無謀にも爺々と幸はセレクションレースに挑戦した。

ウィニングは95分。爺々は120分もかかってヨタヨタとフィニッシュした。

綺羅 「爺々、幸まだゴールしてないよ」

爺々 「ん？ 心配だけど少し待ってみようよ」

幸は程なく誰かが落としたウェストバックを手を持ってゴールした。

爺々 「幸、お疲れさま。爺々もつきさつき帰ってきたばかりだよ」

幸 「ぼく、時間が気になって3個取らなかったよ」

爺々 「時間？ 昼飯の時間？」

幸 「夕べ、高島さんが競技時間は3

時間で、それを過ぎたら警察に連絡します。そして検索費用は個人に請求します、と言ったので12番を取って急な沢を越えたとき、全部回ってゴールしたら3時間オーバーすると思ったんだ」

爺々 「競技時間を気にしていたんだね。今日の競技時間は3時間と決められたけど、未帰還者検索はゴール閉鎖した後なんだよ。今日のゴール閉鎖は13:00だからもう少し時間があつたんだよ。13から15はどうせ帰る途中だから回ったらよかったのに」

幸 「オープンを近道してゴール前にきて時計を見たら、3時間前だったので16番から4個の小回りを回ってきたんだ。そしたらこのバックが落ちていたんだもん」

爺々 「幸、フットも同じだけど、地図やコンパスなど物が落ちてても拾ってこないことになってるんだ、路の脇とか目に付くようにして、そこに置いてくる事になっているんだ」

幸 「そんなルールがあるのか、折角拾ってきたのに」

爺々 「そのバックは萩田さんが落としただけで、今探しに行ってるよ。それにしても、地図がボロボロだね」

幸 「何回か転んで坂道を滑り降りるとちぎれて飛んで行ったんだ」

若年層と初心者にはルールと用語の説明が必要な事を痛感した。



ホルダーからはみ出た部分がボロボロになった幸のマップ

チャレンジコース

- 幸 「爺々 オリエンテーリングやりたいなあ、4月に近くで大会ないの？」
- 爺々 「あるよ、矢板の全日本テレインで世界選手権などの代表セレクションがあるけど、年少者のクラスがないんだ」
- 幸 「僕たち出れないの？」
- 爺々 「ジュニアクラスにチャレンジできるかもしれないのでメールで問い合わせしてみるよ」
- 爺々 「追加申込できたよ。難しいけどチャレンジするか！」
- 幸 「爺々、基生君も行きたいって」
- 爺々 「判った。でも、コントロール位置が今までのように簡単ではないよ。路がないところを地図の情報を頼りに進む事になるからね」

当日、爺々の心配をよそに二人はうきうきとスタートに向かった。MEにチャレンジした爺々がゴールした時点で、速報に二人の名前があった。

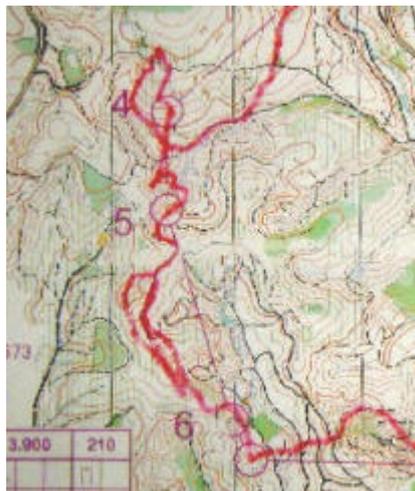
- 爺々 「二人とも、あんな難しいコースなのによく帰ってこれたね」
- 幸 「うん、とっても面白かったよ。こんなコースがオリエンテーリングって感じだね」
- 爺々 「そんなに面白かったか、二人とも自分のルートチョイスを書いて見せてよ」



幸のルート図

うーん、爺々はうなった。これまでの経験があるとは言え、12歳を侮ってはいけぬ。小道を利用して走り、アタックポイントもそれほどの間違いは見当たらない。

- 爺々 「基生君は大会経験が少ないのに間違ったときのリロケートができるから、今後が楽しみだね」
- 幸 「モッチーも又やりたいそうだよ。今度行くときも連れていこうよ」



基生君が難しいと感じた部分のルート

隠されているフラッグ

- 爺々 「コントロールで難しいところや判らないのころはなかったの」
- 幸 「小さな沢を探すのが大変だったよ。それから、穴のコントロールはフラッグが中に隠されているんだね」
- 爺々 「穴のフラッグねー。隠されているんじゃないが、爺々も疑問に思ってるんだ」
- 幸 「どうして？」
- 爺々 「厳密に言うとね、コントロールに関する規定とコントロール位置説明を解釈すると、穴の中にコントロールは設置できないことになるんだ」
- 幸 「どういうこと？」
- 爺々 「コントロールは競技者がそこに到達したときに見えるように吊るす、となっていて、穴や小凹地に置く場合は地表面と同じ高さのふちに置くことになっているんだ。北のふちとか南西のふちとね」
- 幸 「じゃ、どうして穴の中に置いたんだらうね」
- 爺々 「国際ルールが変わったのかな？それとも、世界選手権とかのセレクションレースだからプランナーが特別に決めたのかな？」
- 幸 「爺々も判らないの？」
- 爺々 「ごめんね。爺々は英語がわからないからIOFルールが変わっても誰かに訳してもらうまで判断できないんだ。羽鳥さんがIOFの地図委員だから今度聞いておくよ」
- 幸 「やっぱり英語は覚えなくちゃいけないね」
- 爺々 「そうだよ、しっかり勉強してくださいよ。別の話だけど穴のことで思い出したから話そうか」
- 幸 「うん、どんな話」
- 爺々 「昔、ある大学の大会が秋に行われました」
- 幸 「昔話か、おじいさんとおばあさ

- んが出てくる物語？」
- 爺々 「そうです。おじいさんとおばあさんは参加することを指折り数えて楽しみに待っていました」
- 幸 「爺々、じらさないで教えてよ」
- 爺々 「ところが、大会の前の日が大雨になりました。学生たちは折角ボストも設置して準備したのに、と、空を見てはうらんでいました」
- 幸 「中止になったの？」
- 爺々 「天は助けるものを助く。当日はすっかり天気になりました」
- 爺々 「学生たちは元気に大会を開催しました」
- 幸 「よかったじゃない。それだけ？」
- 爺々 「皆は決められたスタート時刻に次々とスタートしていきました」
- 爺々 「ところが、何個目かのコントロールが穴の中に設置されていて、その穴は昨日の雨で水で満水に溜まってパンチ台は見えないし、フラッグが水の中でふわふわ・・・」
- 幸 「あはははは、パンチできなかったの？」
- 爺々 「みんなが穴の周りでうろうろしてたんだけど、誰かが穴に入ってパンチ台を抜いたんだ」
- 幸 「じゃあ、みんなパンチできたんだね」
- 爺々 「うん、本当は競技不成立なんだが、誰もクレームを付けなくてレースできた事に感謝したんだよ」
- 幸 「やっぱり、コントロールは穴の中に設置しないほうがいいんだね」
- 爺々 「そのはずなんだが、学生の中には今も穴の中に置きたい人がいるからね。早く羽鳥さんに確認しようね」
- 幸 「スキーも面白いけど、フットもこれくらい難しいと面白いね。このテレインでまたやりたいな」

親から聞くところによると、幸は帰宅した後何日も地図を眺めていたそうだ。対案のルートを検討したりコンターの本数を数えるようであれば中学1年生にしてオリエンに嵌ったということになる。

こんなに関心を示したのは爺々について修行始めてから初めての様な気がする。さくらんぼ大会の調査日程をやりくりしてでも新潟大会に当日参加で連れて行こうかな？

他にも孫はいるが(7人)皆小さい。今、爺々が幸にできる事はこれくらいだ。善は急げ!!多田実行委員長(山形県出身)にインターネットで問い合わせしてみるか!

(武石雄市)